

## 東アジアの新興債券市場は堅調、しかしリスクも存続、 ADB の報告書

【シンガポール、11月26日】ーアジア開発銀行（ADB）は、東アジア債券市場の動向に関する報告書「[アジア債券モニター](#)」（ABM）の最新版を発表した。それによると、東アジアの新興国（調査ではASEAN10 に中・韓・香港を加えた13の国・地域が対象）においては、経済成長が力強く、金融システムの整備が進んだこと、及び米サブプライムローンへの関与が限定的だったことなどから、世界金融動揺からの影響は抑えられたとしている。しかし、リスクは依然残っていると分析している。

これらの地域においては、地域全般に影響を及ぼすような問題の兆候はみられないものの、域内の経済・金融市場の市場動向に対する下振れリスクは残っており、今後何らかの波及が拡大していく懸念は排除できない。

ADB 地域経済統合室の Jong-Wha Lee（李鐘和）室長は、「世界金融市場の変動が長引けば、リスク回避やクレジットリスクのリプライシング（価格再設定）が増えて、資本の流れが反転する可能性はある」と指摘している。

世界の金融市場における現下の混乱が意味するものは、世界的に結びつき、市場の動きが驚くべき速さで広がる中で、リスク分散のために開発された画期的な金融商品が初めて試されていることだ。

Lee 室長は、東アジア新興国の経済や市場に対する影響は今のところ限定的であるとした上で、世界経済の成長が顕著に落ち込んだり、信用に関する政策といったことがあれば、家計と企業双方の消費が冷え込み、すでに一部でみられるような債券の新規発行を手控える動きが出るだろうとも述べている。

今回の報告書では、オフバランスシートの評価や会計方法の向上を通じて市場の透明性を高めることや、リスク管理の強化、現地通貨建て債券発行促進のための市場環境整備等を強調している。また、市場のモニタリング体制や制度の構築、および金融機関のリスク管理手法の開発における域内協力を強化することを求めている。

東アジア新興国においては、債券市場の制度改革や自由化が続けられた結果、ソブリン債の信用格付が上がった例もいくつかあり、こうした傾向は、この地域において GDP よりも急速に成長している債券市場が、さらに拡大の度合いを速める可能性を十分に示唆している。

この地域における 2007 年 6 月末の現地通貨建て債券の時価総額は、2006 年末時点の発行残高 2.7 兆ドルから 9.9%、前年同期（2006 年 6 月）比で 17.2%、それぞれ上昇した。

さらに、大半の国では自国通貨高により債券のドル換算額が増した。政府による現地通貨建て債券発行が本年上半期に 10%成長したのは、各国の中央銀行が多額の資本流入に伴う過剰流動性を吸収する目的で債券発行を増加させたことが一因とみられる。

一方、社債については過去 18 ヶ月間連続して政府債市場の伸びを上回ってきたが、2007 年前半はややペースダウン。これは主として短期金融のコストが上昇したためとみられる。

一方、イールド・カーブ（利回り曲線）は、多くの国でインフレ圧力が高まったことを受けて過去 2 年の長期トレンドが反転し、2007 年にスティープ化した。報告書は、多くの国においてインフレ圧力は調整しうるものの、インフレが過熱するようなことがあれば、深刻な上振れリスクとなって利回りを押し下げる恐れがあるとしている。

ABF 汎アジア債券指数（ABF Pan Asian bond index）は、世界金融市場の混乱にもかかわらず、2007 年 1-9 月期で 5.4%上昇した（2006 年の年間を通じた配当率は 13.64%）。

---

**お問い合わせ先**

駐日代表事務所  
広報担当: 望月 章子  
T: +81 3 3504-3441/3160  
E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADB のニュースリリース(和文)は、下記URLにて  
ご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>